

**② 組織をつくり上げ、それを維持する役割。**

**計画や反省のためのトップマネジメント会議**

【現代の経営・下】P69

- ・ 中小企業にとって最も重要な原則は、行動のための意思決定に追われて、計画したり、考えたり、分析したりすることをおろそかにしてはならないことである。
- ・ 理想的な組織とは、会議なしに動く組織である。仕事をなすにも、人が集まることは最小限とすることを原則としなければならない。会議は極めて効率の悪いツールである。
- ・ ただし、方向性を示し点検する会議は、例外的な存在である。その機能は、決定することでも、実行することでもない。その最も重要な機能は、現業のマネジメントを同席させ、それぞれの方向、ニーズ、機会について考えさせることである。

- ・ 中小企業のトップマネジメントは、年に一週間は、計画や反省のための会議に時間を割く必要がある。そのような会議は社外で開き、マネジメントの上層部が全員参加する必要がある。

① 「いつその会議を開くか？、その期間は？」

② 「どこでその会議を開くか？」

③ 「その会議の参加者は？」

① 我々の会社の強みと弱みは何か？

④【知識分析】

成功してきたものは何か？上手にできたものは何か？	失敗してきたものは何か？上手にできないものは何か？

② トップ自身が事業にとって存続と成功がかかっている重要な活動について、相談しなければならない。

【例】生産活動、顧客サービス、人事、新製品や新技術、日常業務、製造、物流、アフターサービス、財務

【あらゆる組織に共通する重要な活動】

①人のマネジメント、②資金のマネジメント

「われわれの事業にとって、存続と成功がかかっている重要な活動は何か？」


③ トップなど主な人たちの一人ひとりが、自分が得意とするものは何か、他の人たちが得意とするものは何かを考えなければならない。

トップマネジメント	自分が成果をあげた仕事は何か？ 自分が得意とするものは何か？	他の人たちから見て得意とするものは何か？

④ それぞれの強みに応じて、誰がいずれの活動を担当すべきか？誰がどの活動に向いているかを検討しなければならない。こうしてようやくトップマネジメントチームが構築される。

- ・ 重要な活動のすべてが誰かによって担当されるようにしておかなければならない。

トップマネジメント	「誰がどの活動に向いているか？誰がいずれの活動を担当すべきか？」

